

自動車向け金型技術を応用した医療向けカテーテル用金型の試作開発

海外に太刀打ちできる技術者集団へ「失敗を恐れない、諦めない」



自動車向け金型技術生かして医療分野へ

【経営理念】

従業員やその家族の生活を守り、その幸せを目指し全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類・社会の進歩発展に貢献する。

製造業での製品の品質・性能や生産性を左右する重要な裏方を担うのが金型。その中堅メーカーとして奮戦している。高校卒業後、大阪で彫刻職人をしていた吉部大史朗社長（67）がUターンし、1978年に金型彫刻を手掛ける「あけぼの彫刻」を創業。1988年からはプラスチック金型を手掛け、現在は自動車用プラスチック部品の精密金型が大半を占める。

受注先は東海、近畿から中国、九州と全国に広がり、海外へも東南アジアなどに自動車用金型を中心に輸出しているが、試作から検査までの一貫生産体制で、納期の短縮による地方のハンディを克服。また、低価格を武器とする中国などの新興の海外勢に立ち向かうために1～3ミクロンの精度に挑戦する超精密金型部門を設け、コネクタ関連製品などに用いる金型製造を手掛けてきた。

ところが、主体である自動車向け金型の製造は、近年、自動車メーカーによる生産拠点の海外進出に伴い、国内の絶対量が減少し、安定受注が厳しくなっている。そのため2011年にはタイへ進出、工場を設立した。さらに、自動車向け金型製造で培った技術を生かし、コンスタントに増加している医療機器関連、中でも安定受注が見込める処置用機器類の金型製造にも力を入れようとしている。



高剛性工作機械により高精度加工が実現

高齢社会を背景に、景気に影響も受けにくく、安定した成長が期待される医療機器市場。同社はこれまでも大手医療器具メーカーの金型製造を手掛けてきた実績はあるが、医療向けの金型は自動車向けと比べると数段の高品質、多数個取り、ハイサイクルが求められており、これまでの同社の機械では対応ができなかった。今回導入した高剛性工作機械により多数個取りや、寸法のばらつきの減少、高精度加工が実現し、量産用金型の製造も可能となった。特にカテーテルなど処置用機器類は市場が拡大しており、今後は医療用金型製造に向けてさらなる試作開発に加え、新規販路開拓の営業活動に取り組む。

代表取締役社長
吉部 大史朗



- 1 今回導入した高剛性工作機械
- 2 医療用サンプル商品
- 3 自動車部品のプラスチックサンプル



チャレンジ精神で環境変化に立ち向かう

プラスチック金型やプレス金型など金型業界はピーク時の1980年には全国で2万社、それが、中国や東南アジアに押され、現在は3分の1にまで激減。危機意識から12年前、「しまね金型研究会」を結成、県内14社の会員と先進地視察や研修に取り組んでいる。

社員の平均年齢は35歳と若い。精度を競う金型製作は、熟練の技が求められており、「失敗を恐れない、諦めない」チャレンジ精神を大切に、海外に太刀打ちできる技術者集団を目指して研鑽を重ねている。金型メーカーを取り巻く環境変化に対してもチャレンジ精神で向い、医療分野への新規販路開拓も吉部社長を先頭に切り込んでいく。将来的には医療向け金型の技術を生かし、精密分野への特化を考えている。創業以来の金型彫刻も得意分野として技術をさらに磨いていく。

Company Data

アケボノ（株）



益田市左ヶ山町の本社

代表者名：吉部 大史朗
設立年月日：昭和53年12月25日
資本金：31,500千円
従業員数：45名
業種：プラスチック金型製造業
売上：603百万円
住所：〒699-5121
島根県益田市左ヶ山町口167番地1
電話：0856-23-1682
FAX：0856-22-2982
URL：<http://e-akebono.jp/>